

特別支援学級で学ぶ 子供たちの進路選択について

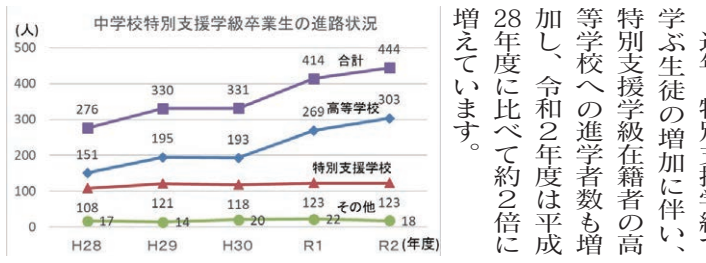
鹿児島県教育庁 義務教育課 特別支援教育室 指導主事 佐藤 誠

「現在、子供が特別支援学級に在籍しているが、どのように卒業後の進路先を決めたらよいか。」「どのような進学先が考えられるのか。」と保護者から相談を受けることがあります。中学校卒業時の進路選択は、お子さんにとって大事なことであり、悩まれることと思います。

そこで、今回は、特別支援学級に在籍する生徒の進路の現状と、進路選択のポイントについて紹介します。

① 特別支援学級に在籍する生徒の進路の現状

令和2年度に本県中学校等を卒業した生徒のうち、特別支援学級で学んでいた生徒（444人）の約7割が高等学校、約3割が特別支援学校に進学しています。



近年、特別支援学級で学ぶ生徒の増加に伴い、特別支援学級に在籍者の高等学校への進学者数も増加し、令和2年度は平成28年度に比べて約2倍に増えています。

② 進路決定までの流れ

進路選択については、進路先決定にとどまらず、お子さんが自分の興味・関心のあること、長所や短所などを理解し、自分の生き方を見付ける

ことができるように、計画的に取り組んでいくことが必要です。その際は、早い段階から多様な正確な情報を知ることが大切です。

また、将来の社会生活において、どのような仕事に就きたいかなど、お子さんの気持ちや考えを踏まえながら、様々な選択肢の中から主体的に選択できるようなしていくことも大切です。

そのためにも、進路相談や学校での進路学習を通して興味・関心をもった高等学校や特別支援学校等の見学会や体験学習に積極的に参加し、学校の雰囲気や特色、学習内容などを知ることが必要です。

③ 進学に向けて

高等学校を受験する際の合理的配慮（例えば、試験問題の拡大や別室の確保など）については、中学校が作成している個別の指導計画の内容や、中学校で提供されている合理的配慮の実践に基づいて、入試の際に必要な支援や配慮について確認し、受験する高等学校と中学校を通して連携を図

ることが必要です。

また、中学校で合理的配慮を受けている場合、高等学校に入学期、お子さんが安心して学校生活を送ることができるよう、これまでの合理的配慮の内容等を基に、進学先の学校と十分な合意形成を図っていくことが大切です。

特別支援学校への進学を検討しているお子さんについては、学校見学や体験入学等を通して、特別支援学校の学習内容を十分に把握することが大切です。また、体験入学等で、特別支援学校の職員にお子さんの状態像について知ってもらうことも大切です。

移行支援シートとは、中学校まで取り組まれてきた必要な支援や配慮すべき点などを、保護者や中学校、進学先の学校等と理解し合い、情報を共有して、一貫した支援をつなぐためのツールです。

掲載のQRコードから県教育委員会のホームページを御覧いただけますので、御活用ください。

④ 切れ目ない支援について

特別な支援を必要とす



保護者の皆様へ
～移行支援シートについて～



移行支援シート

保護者の皆様へ
～移行支援シートについて～

就学・進学に際しまして、お子様の情報をコンパクトにまとめ、確実に引継ぐためのツールとして、「移行支援シート」があります。

移行支援シートを活用して、事前に就学・進学先に情報を伝えておくこと、これまで在籍校（園）で行っていた支援を、引継ぎ先学校・進学先でも実施することにつながり、お子様が安心して学校生活を営むことができます。

紙と電子版での活用をスタートすることによって、就学・進学先の学校に知って欲しいとお願いしたいことや、配慮してほしいことなど各課や学校の先生方と相談しながら、まとめましょう。

うちの子は…

- 忘れ物が多いから心配なあー。
- 文字を書くのがとても時間が掛かるから、原簿を書き写るのが大変そう。

移行支援シートに整理して引継ぎましょう

移行支援シートに記入する際は、赤色のテープで個人ごとの情報を隠すようにして記入してください。書く順番をあらかじめ決めておくことで、安心して授業を受けられます。

準備する物は、メモ帳に書くように、本人に指示してもらえ、あがりやすいです。

ノートに書き写す際は、赤色のテープで個人ごとの情報を隠すようにして記入してください。書く順番をあらかじめ決めておくことで、安心して授業を受けられます。

なるほど！ちょっとした工夫で、自分で書くことが楽しくなりました。

この移行支援シートは、県教育委員会から提供されています。

※ 移行支援シートに関する問合せ先：各学校（管理棟、特別支援教育コーナー）
鹿児島県教育庁義務教育課特別支援教育室（099-298-5296）